

団体名 <b>糸満市立高嶺中学校</b>	連絡先 TEL : 098-994-2045 Eメール : <b>takacyu@takaminec.city.itoman.okinawa.jp</b>
-------------------------	---

## 「カリキュラム・マネジメント（PBL学習・探究学習）」

### 実践内容

本校は、キャリア教育を柱とした教育実践に取り組んでいる。3年前からコロナ禍において実施できなかった職場体験学習の代替学習として、2年生では企業ミッション型PBL学習（課題解決型学習）を実施している。3年生は、2年生で培ったPBL学習（課題解決型学習）のスキルを活かした探究学習「まちづくりの提案」を実施している。3年生の探究学習では、教科学習と総合的な学習の時間をより関連づけた教科横断型学習となっている。

また学校行事等の事前・事後の取り組みにおいてルーブリック評価シートを活用し、身につけたい力を生徒と共有している。「基礎的・汎用的ルーブリック評価シート」は、年度初めに生徒一人ひとりに配布し、通年を通して生徒自身がメタ認知でき、振り返ることができる。

探究活動とは/PBL授業とは

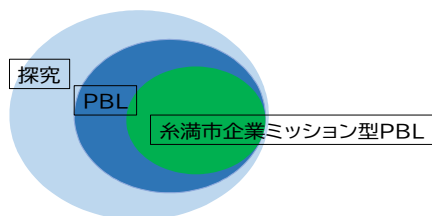
資料

#### 探究とは・

「答え」のない「問い」に対して、何らかの「答え」を導き出すこと。  
「自分で考える力を身につけ」「自分で問題を解決できるようになる」のが目標。  
「非認知能力」の育成。

#### PBLとは・

Project-Based Learningの略で、子どもたちが自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を身につける学習方法のことで「課題解決型学習」ともいわれる。



令和2年度に高嶺中で初めて企業ミッション型PBL学習を実施した。令和3年度は糸満市内の4中学校で取り組まれ、令和4年度には市内6校の中学校で実施された。学校と地域、糸満市教育委員会生涯学習課が連携した糸満市の特色ある取り組みとなっている。

図1 PBL学習と探究学習

探究活動とは/PBL授業とは

資料

#### (例)探究学習のステップ

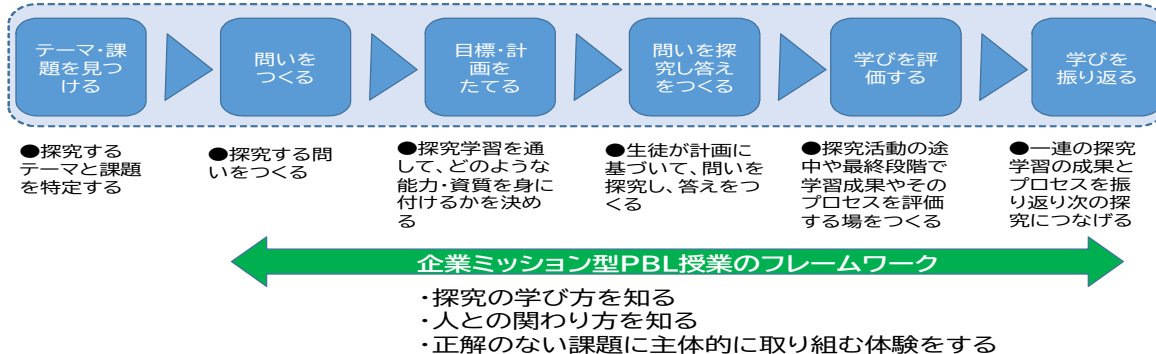


図2 探究学習のステップ

【 2年生 PBL学習（課題解決型学習） 】

企業ミッション型PBL授業プログラムの流れ

資料

地域・企業からのミッションに挑戦しよう！  
～「困った」を「ハッピー」に変える～

ステップ	コマ数	内容	企業参加	教師の役割
STEP1	1	<b>オリエンテーション</b> ○事前アンケート ○PBL授業を知り、これからの見通しをたてよう！ ○グループ決め、リーダー選出		・パワーポイント資料をもとにPBL説明 ・グループ決め、リーダー選出の支援
STEP2	4	<b>ミニ体験「新しいお菓子を作ろう！」</b> ○簡単なお題で活動の流れを体験してみよう！ ○アイデア収集→グループで企画会議→ミニ発表会		・パワーポイント資料をもとにミニ体験を進行 ・ミニPBLを後方支援、見守り
STEP3	2	<b>ミッション提示</b> ○企業からのミッションをもらう	◎	・ミッションについては事前に企業と調整 ・企業の紹介、進行補助
STEP4	6	<b>ミッションについての調査・企画会議</b> ○インターネットや書籍等にて情報収集、ヒアリング・アンケート調査等の実施 ○グループにて企画の仮説(プロトタイプ)を作成	必要に応じて	・調査方法などのアドバイス ・企業との打ち合わせなどが必要なグループがあれば調整
STEP5	2	<b>中間発表</b> ○各グループごとにプレゼンテーション(相互に評価) ○質疑応答の時間を重視 ○企業からのアドバイス	◎	・企業との事前調整(中間発表は少し辛口で、率直に、を共通理解する) ・評価の視点を統一(どんな力をつけさせたいか)
STEP6	6	<b>企画のブラッシュアップ</b> ○中間発表のフィードバックをもとに企画修正 ○本発表に向けてのプレゼンテーション準備		・見守り、ブラッシュアップの後方支援 ・大幅な変更のあるグループの活動サポート
STEP7	2	<b>最終発表</b> ○企業への最終発表、講評をもらう ○できるだけ多くのオーディエンスに参加、質問してもらう	◎	・会場設営(協力教員への指示など) ・企業との事前調整 ・生徒への激励
STEP8	1	<b>事後学習 振り返り</b> ○活動の振り返り、生徒各自がどのような力を発揮したか等を中心に ○事後アンケート		・振り返りの方法について丁寧に説明

(計24コマ)

図3 企業ミッション型PBL授業プログラムの流れ

企業ミッション型PBL（課題解決型学習）は、学校と地域（糸満市内の企業）を結び、学校と地域（企業）が一緒になって授業を創っていく流れとなっている。

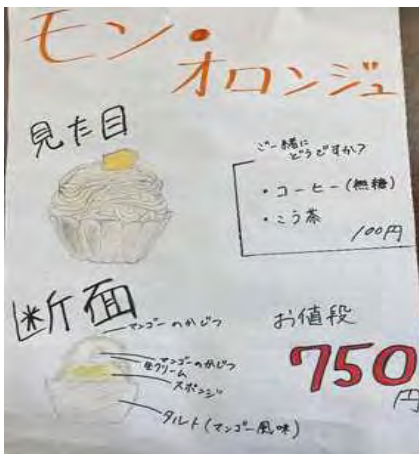
【ミニ体験】糸満市の食材を使った「新スイーツを提案しよう！」 4時間

グループになりアイデアを出し合う。アイデアを出す際のルールは以下の通りである。

【アイデアを出すときのルール】

- ① 一人1回以上は発言しよう！（発言の独り占めは禁物）
- ② とにかくアイデアをたくさん出そう！
- ③ おもしろく突飛な意見大歓迎！
- ④ 批判や否定はしない！
- ⑤ 人の意見を借りて変形してもOK！

色々なグループの発表を聞いてどのグループもいいアイデアを出していて良かった。本当に販売していたら買いたくなる。自分たちのチームもなかなか良い発表ができて良かった。（生徒感想より）



授業をふり返ってたくさんのアイデアを出すことができた、まあまあ出来ていると答えた生徒が94%と高い数値を示した。自由な発想のアイデアの出し合いは効果的であるといえる。正解のない答えを考えることは、考える力を身につける、自分で問題を解決できる、非認知能力の育成につながる。

写真1 ミニ体験 糸満市の食材を使った「新スイーツを作ろう」一例

## 《 中間発表 》

中間発表では、グループで調べたことをプレゼン発表を行う。企業の方からのアドバイスもいただく。企業の方のアドバイスは、最終発表へ向けての生徒たちの意欲や向上につながる。

## 《 最終発表会の様子 》

最終発表会は、ミッションを提示した企業の方等、1年生、保護者をオーディエンスに発表を行った。最初、企業の方は地域貢献や生徒のためと答えて下さったが、実際に授業を行っていく中で、自分も刺激になった、社員の視野を広げる意味で人材育成につながるとメリットを挙げていた。



写真2 最終発表会の様子

- 自分たちだけのアイデアと方法で課題解決の提案をするという経験は、とても貴重であり、まさにこれから必要とされる資質・能力であると感じました。(教師のふり返しより)
- 中間発表では「提案の根拠を強化するためにはどうしたらよいか？」という視点でアドバイスをいただいたことで、生徒は最終発表に向けて自分たちはどうすればよいか明確になったと思います(教師のふり返しより)



写真3 企業の方も発表会へ参加

企業の方が学校と連携した授業づくりは学校での学びが実社会とつながっている。

○沖縄の企業のミッションを解決するために、2年生が自分たちで考えていたのすごいなと思いました。来年、私たちがPBL学習をするのでとても参考になりました。また、自分たちで実践してみて、やってみての感想も伝えていたので、それが説得力があってマネしたいところだと思いました。

○どのチームも他にはないアイデアや実用性、料金などまで考えていてすごいなと思いました。2年生になったら、ここまでレベルも上がり、みなさんの前で発表すると思うととてもワクワクしてきました。

図4 最終発表会を聞いての1年生の感想より(一部抜粋)

2年生の企業ミッション型PBL学習(課題解決型学習)は、コロナ禍で職場体験学習が行うことができず、その代替学習として実施してきた。一連のプログラムを通して、生徒が主体的に活動する様子が見られた。このように、地域企業の大人が関わることで生徒の大きな成長を見ることができた。

## 【 3学年 探究学習 】

本校においては、2年生でのPBL学習のスキルを活用し、3年生では探究学習を実践している。教科学習と総合的な学習の時間、特別活動において生徒に身に付けさせたい力を共有し、生徒と共に共有し、学年掲示板に掲示し可視化した。また、実践するにあたって、SDGsの視点も取り入れた。





図5 3学年 カリキュラム・マネジメント

3学年の生徒の実態として、人間関係形成・社会形成能力が弱い実態があったため、4月と7月の2回、ソーシャルスキルトレーニング講座をカリキュラムの中に取り入れた。総合的な学習の時間とスポレク大会や修学旅行等の学校行事も含めて、基礎的・汎用的能力の育成を図った。

教科学習と総合的な学習の時間との教科横断型実践となっている。以下のとおりである。

3学年の職員が4名となっているため、3教科で関連付けて実施した。

教科	単元名	出版社
国語	ワールド・カフェについて	光村図書
理科	「地球と私たちの未来のために」	東京書籍
社会	地方自治と私たち	東京書籍

図6 教科学習（9月～12月）

月	計画
5月	市役所見学（地域連携）
10月	ワークショップ 北村さん（ファシリテーター・地域連携）
11月	ワールド・カフェで発表（output）
11月	修学旅行（特別活動）ホテルの方へインタビュー
12月	大学の先生によるエネルギー講座（地域連携）
12月	ワールド・カフェで発表（output）

図7 地域連携と修学旅行



写真4 議場でのロールプレイ

8月30日に糸満市役所に行っているいろいろな体験をしました。特に印象に残ったことはロールプレイングでした。ロールプレイングは、議場を使って実際に話し合いを再現するというものでした。気づいたことは、議員の人たちがどれだけ糸満市のために行動してくれたかです。僕たちはこれから、議員だけに任せるのではなく、選挙などに参加して、どの議員がいいのかを判断して、よりよい糸満市をつくる協力をしていきたいです。

（生徒の感想より一部抜粋）

私たち学年は糸満市の庁舎見学へ行きました。事前学習として、糸満市の組織や議員さんについて教えてもらいました。ロールプレイングでは、実際に議員さんたちがどのように、どのような発言をしているのかをよく知ることができ、糸満市をより良くするために話し合っているのかを知ることができました。これらの学習を生かして私は地方自治の学習に役立てたいと思いました。（生徒の感想より）

以上、生徒の感想より実体験する学びは、市政に参画する意識をつくることにつながった。

### 【 網走第二中学校とのオンライン交流 】

9月には糸満市と網走市が姉妹都市であることから、網走第二中学校とオンラインで結び、互いの市について交流しました。気候や食べ物等の違い、漁業の町も共通点を確認し合っていました。



写真5 オンライン交流



写真6 糸満市の調べ学習

私たちは9月30日に、北海道にある網走第二中学校の方々と交流しました。交流は2回目になります。前回と同様、初めはうまくつながりませんでした。だけど、声もちゃんと聞こえるようになって、スムーズに進めることができました。今回の交流の目的は、お互いが住んでいる地域について発表し合うことです。私たちは、糸満でとれる魚や美らキャロットについて発表しました。網走のお話を聞いて、流水が見られることが分かりました。沖縄では絶対に見られないものなので、いつか見てみたいと思いました。また、お互いの地域は漁業がさかんで、新鮮な魚がとれるという共通点も知ることができました。交流を通して、網走について深く知ることができました。楽しい交流でした。いつか網走を訪れてみたいです。 (『沖縄タイムス』新聞投書 生徒の感想より)

### 【 修学旅行 】

修学旅行は、コロナ禍のため県内1泊旅行となった。宿泊は名護市内のホテルである。ホテルの方へインタビューをする時間を30分程度設けた。インタビューの内容は事前にホテルの方へ伝えた。事前学習として、名護市について調べ学習を行った。また、SDGsの視点からインタビューを行った。



写真7 ホテルの方へインタビュー

#### 【インタビュー内容】

- ・名護市は経済金融活性化特区となっていますがホテルの売り上げについて聞かせてください。
- ・名護市はゴミの再資源化リサイクル率が県内1位だと聞いていますが、どのような取り組みをしていますか？ (一部抜粋)

インタビューの内容は、名護市について事前に調べ学習を行い、糸満市のまちづくり提案の参考に役立つ内容となっている。ホテルの方から他地域の取組を直接聞くことができ、生きた学びとなった。

### 【まとめ】

3年生は総合的な学習の時間を中心に、教科学習、特別活動(修学旅行)の教科横断型学習で探究学習を行ってきた。糸満市についてワークショップやワールド・カフェの活動を行いながら、名護市や網走市の取り組みを参考に、グループで『一推しの提案』としてまとめ、発表会を行った。





写真8 ワークショップの様子



写真9 まちづくりの提案

【評価場面の設定】

評価場面の設定に当たっては、学校もしくは学年の生徒全員が同様の学習環境にあり、かつ全職員が評価の場面を共有しやすいように、以下の場面で評価を行った。評価にはルーブリック評価シート、汎用的な資質・能力成長シートを作成し活用した。

評価の場面	評価場面			関連する主な教科等
	1年	2年	3年	
5月	スポレク大会			特別活動
7月	1学期の総括			各教科・道徳
11月	合唱コンクール			特別活動
12月	地域活動 職場体験	PBL学習	修学旅行 PBL学習	特別活動 総合的な学習
12月	2学期の総括			各教科・道徳
2月	3学期の総括			各教科・道徳

汎用的な資質・能力 評価シート

汎用的な資質・能力ルーブリック(スポレク大会バージョン)

「スポレク大会を成功させるためには」というのは、具体的に「オリ」がうまくいくために「チームワーク(団結力)」「自分の係をスムーズにするために等、色々考えられます。学年の一人として、役員としての視点、高学年生の一員としての視点からも、自分の目指す力、力が発揮された姿を意識していきましょう！」

評価項目	《課題発見力》	《情報活用力》	《論理的思考力》	《協働する力》	《メディア活用》
1	課題を見つけ、解決しようとする力	目的をもって、情報を集め、実行する力	様々な視点から、筋道を立てて自分の考えを説明する力	他者と意見交流しながら、よりよい考えを作り出す力	学んだことを自覚し、次の学習に生かそうとする力
2	4 スポレク大会を成功させるための方法を自分なりに実行できる。【例】考えた方法をみんなに伝えて、実行してよ。【例】みんなが納得するまで話し合う。】	4 実際に調べた情報を比較したり、結びつけた上で、自分たちに適切な方法一つに絞ることが出来る。【例】本で見つけた情報とインターネットで見つけた情報を比較すると...】	4 スポレク大会を成功させるためにどうしたらよいか様々な視点から判断し、説得力のある説明ができる。【例】理由を成功させるために、色々な視点で考えよう。】	4 スポレク大会を成功させるために、話し合い等で自分の考えを主張しつつ、他者の意見を尊重し、よりよい考えをつくることできる。【例】二つの意見を組み合わせようか...】	4 スポレク大会を通して得た内容を、生活の中の様々な問題の解決に生かそうとすることができる。【例】話し合いの仕方って、学級会でも使えそう。】
3	3 スポレク大会を成功させる方法を考えることはこれからの生活にも役立つと考えることができる。【例】...】	3 スポレク大会を成功させるための方法を複数の手段を用いて調べることもできる。【例】本やインターネットで情報収集...】	3 スポレク大会を成功させるための方法を、学活等で理由も踏まえ順序立てて説明することができる。【例】...】	3 スポレク大会を成功させるために、話し合い等で、お互いの考えの良さを比較して整理することができる。【例】...】	3 スポレク大会に取り組む中で、新たな気づきや疑問を持ち、次の場面に生かそうとすることができる。【例】...】
4	2 スポレク大会を成功させるための方法を考えることができる。【例】みんなが納得するほど考えた方がいい。】	2 スポレク大会を成功させるための方法を実際に調べることができる。【例】本に書いてあるのは...】	2 スポレク大会を成功させるための方法を、学活等で理由を踏まえて説明できる。【例】私は...】	2 スポレク大会を成功させるために、話し合い等で、他人の意見との共通点や相違点に気づくことができる。【例】...】	2 スポレク大会を振り返り、できたことや分かったことを自分の言葉でまとめることができる。【例】...】
5	1 スポレク大会の成功のイメージをもつことができる。【例】頑張っている時って、こういう感じだよ。】	1 スポレク大会を成功させるための方法をどうやって調べた方がいいか考えることができる。【例】先輩達の映像を見ないかな。】	1 スポレク大会を成功させるために、自分なりの作戦を考えることができる。【例】リレーのバトンパスが重要かな。】	1 スポレク大会を成功させるために、話し合い等で、自分の考えを伝えることができる。【例】集合係の仕事をスムーズにするには...】	1 スポレク大会への取り組みや当日の内容を自分なりに振り返ることができる。【例】...】

図8 ルーブリック評価(スポレク大会バージョン)

汎用的な資質・能力成長グラフ

( )年( )組( )番氏名( )

自分の資質・能力の成長を折れ線グラフで表しましょう。自分の変化を知ること、及ばない力を伸ばそうかな?という向上心につながります。

●課題発見力

4					
3					
2					
1					

●情報活用力

4					
3					
2					
1					

●論理的思考力

4					
3					
2					
1					

●協働する力

4					
3					
2					
1					

●メディア活用

4					
3					
2					
1					

図9 汎用的な資質・能力成長シート

【成果と課題】

成果 ○学校だけでなく、地域企業や外部機関(外部人材)との関わりを通して学び、生徒の自己有用感や主体性を育むことができた。

○ルーブリック評価シートを活用し、全体で評価場面を共有することができた。

課題 ・1年生の総合的な学習の時間の工夫を行い、全体のカリキュラム・マネジメントを作成する。

